

平成19年度経営概況

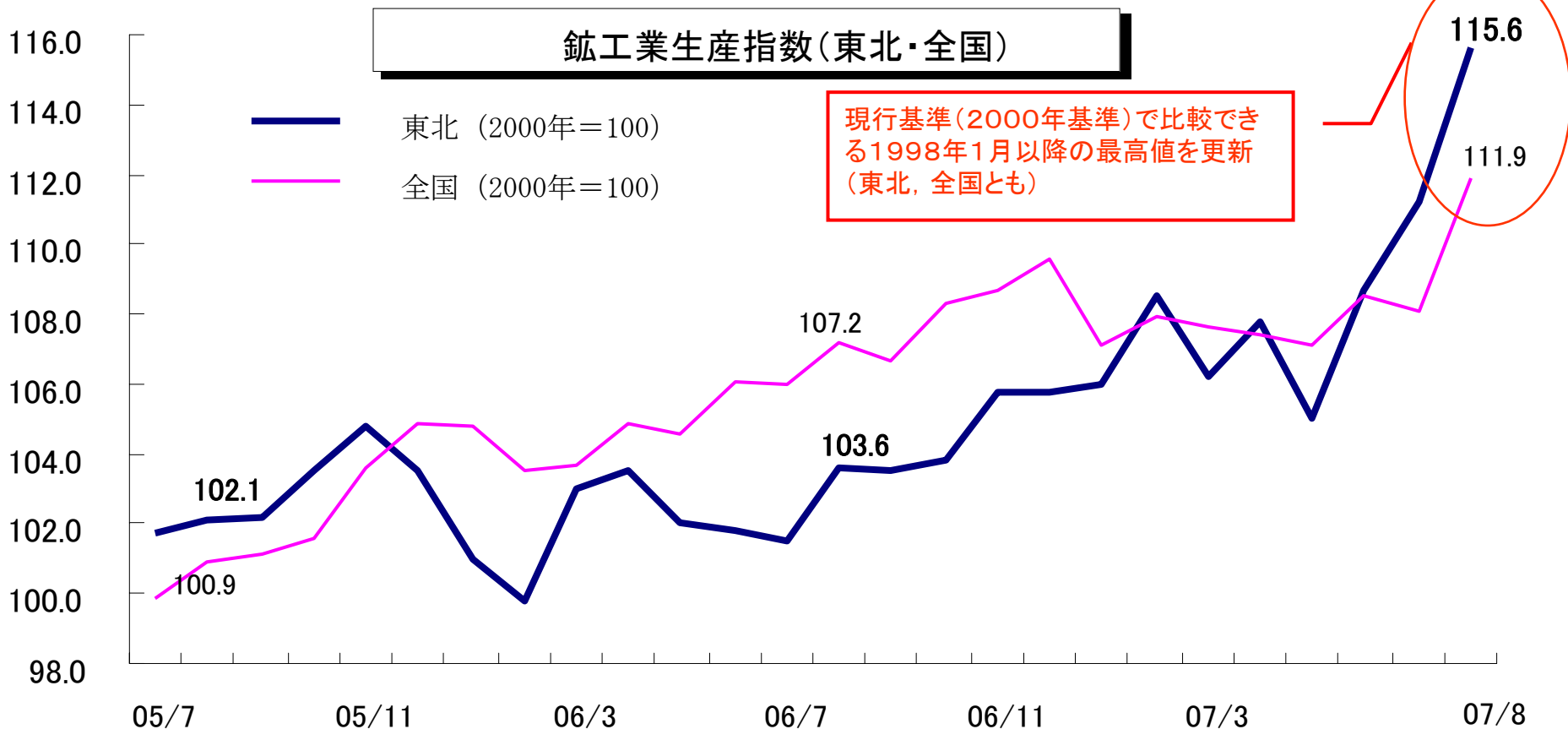
平成19年11月6日



東北電力株式会社

1. 東北地方の景況
2. 巨大化する設備投資は北へ向かう
3. 仙台圏のビル建築状況
4. 家庭用需要の動向
5. 供給力の安全・安定に向けて
6. 原子力発電の状況
7. 燃料調達について
8. フリーキャッシュフローの見通し

東北地域の景気は、緩やかながら着実な回復を続けている。
設備投資は製造業を中心に増加し、個人消費も底堅く推移している中、生産は一段と増加しており、最近では全国を上回る生産となっている。



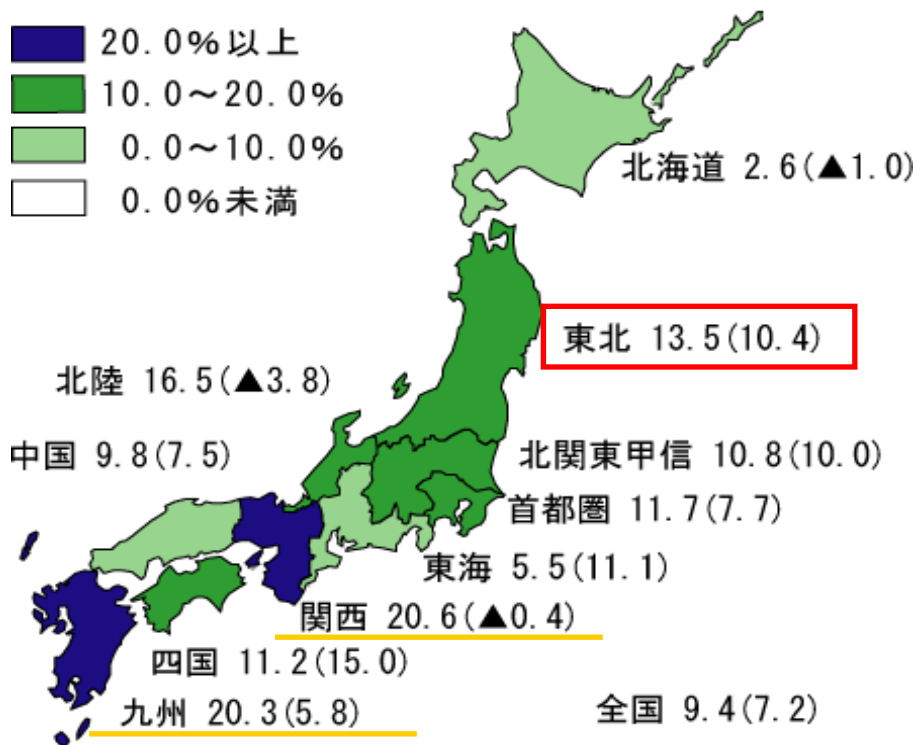
2. 巨大化する設備投資は北へ向かう

電子部品や輸送機械などで大型の投資が増加しており、新たな立地点を探している。

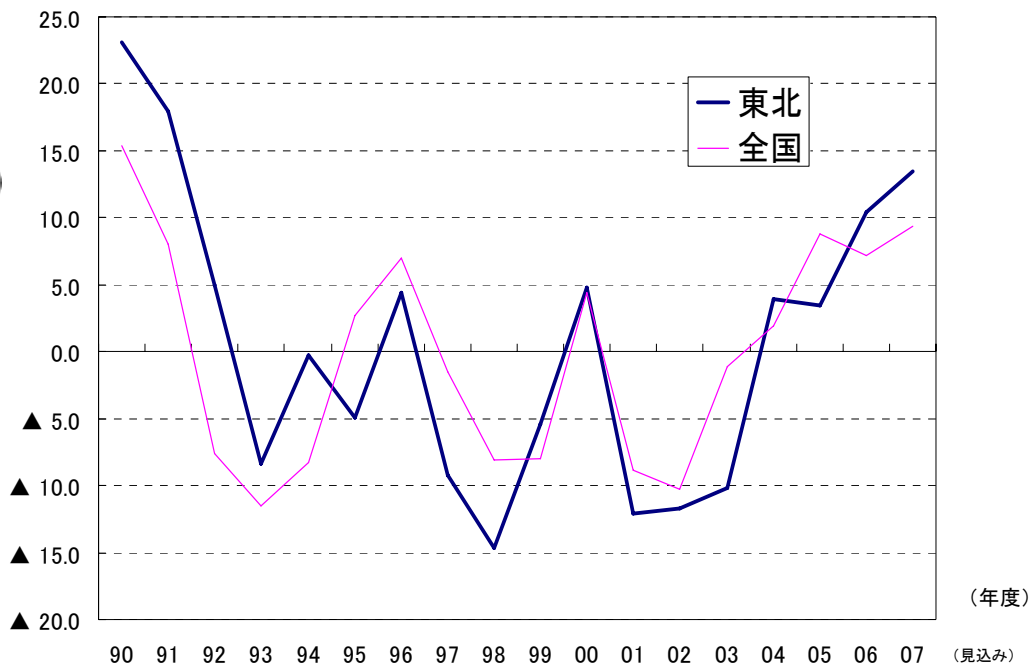


- 大規模な土地が確保できる
- 労働力が豊富
- 基本インフラが整備(交通他)

2007/2006年度地域別増減率(単位：%)
()内は2006/2005の増減率



設備投資年度別増減率(単位：%)



日本政策投資銀行(8/2発表)
「2007年度設備投資計画調査」より

(見込み)

3. 仙台圏のビル建築状況

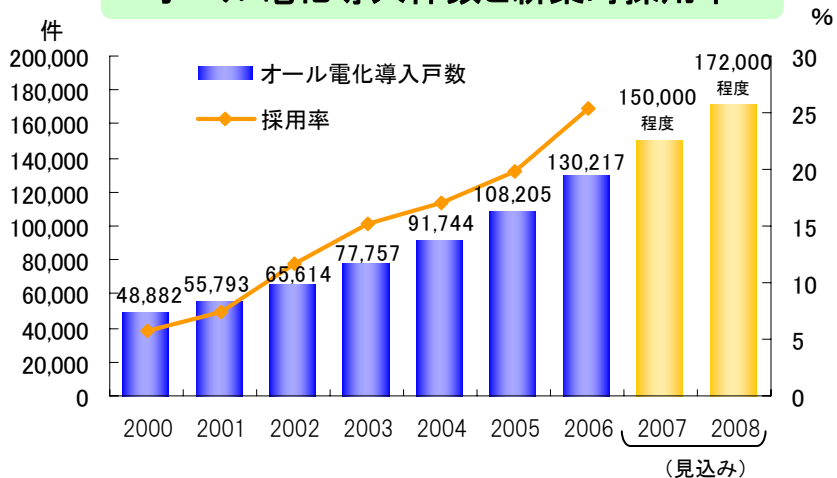
仙台圏では多くの大型ビルの建築が続いており、商業需要の伸びが期待できる。

ビル名	竣工予定年月	所在地	規模(階)	延床面積(m ²)
① HANIX	済(2007.1)	青葉区本町	6F/B1	1,402.5
② 南町センタービル	済(2007.1)	青葉区中央	9F/B1	8,391.9
③ 仙台ファーストタワー	済(2007.6)	青葉区一番町	24F/B2	24,288.0
④ 広瀬通SEビル	2007.12	宮城野区名掛丁	9F	12,592.8
⑤ (仮)中央3丁目ビル	2007.12	青葉区中央	6F	1,980.0
⑥ (仮)仙台花京院プロジェクト	2008.3	青葉区花京院	14F	11,625.9
⑦ イマス仙台東口ビルディング	2008.3	若林区新寺	8F/B1	22,786.5
⑧ あいおい損保新仙台ビル	2008.4	青葉区花京院	14F	11,559.9
⑨ (仮)花京院1丁目計画	2008.4	青葉区花京院	9F	1,980.0
⑩ (仮)エキニア青葉通ビル	2008.5	青葉区中央	9F/B1	6,052.2
⑪ 中央1丁目再開発	2008.6	青葉区中央	19F/B2	31,614.0
⑫ 花京院1丁目再開発西街区	2008.6	青葉区花京院	14F	11,559.9
⑬ (仮)仙台一番町四丁目ビル	2008.7	青葉区一番町	14F/B1	25,452.9
⑭ (仮)仙台東宝ビル	2008.8	青葉区中央	13F/B1	13,200.0
⑮ エムロード	2008.9	青葉区国分町	7F/B1	2,929.0
⑯ 花京院1丁目再開発東街区	2008.10	青葉区花京院	29F	40,359.0
⑰ (仮)仙台本町プロジェクト	2008.12	青葉区本町	18F	14,590.0
⑱ (仮)東一センタービル	2009.2	青葉区一番町	8F/B1	9982.5
⑲ 仙台榴岡ビル	2009.6	宮城野区榴岡	19F	30,465.6
⑳ (仮)仙台一番町プロジェクト	2010	青葉区一番町	37F/B1	66,000.0

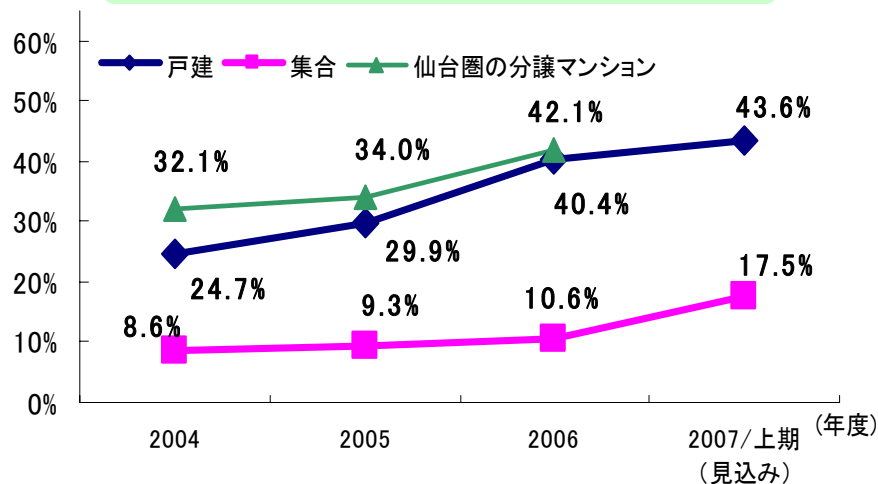
4. 家庭用需要の動向

オール電化は2007年8月に累計で14万戸を突破し、セミ電化とともに更なる拡大を目指す。

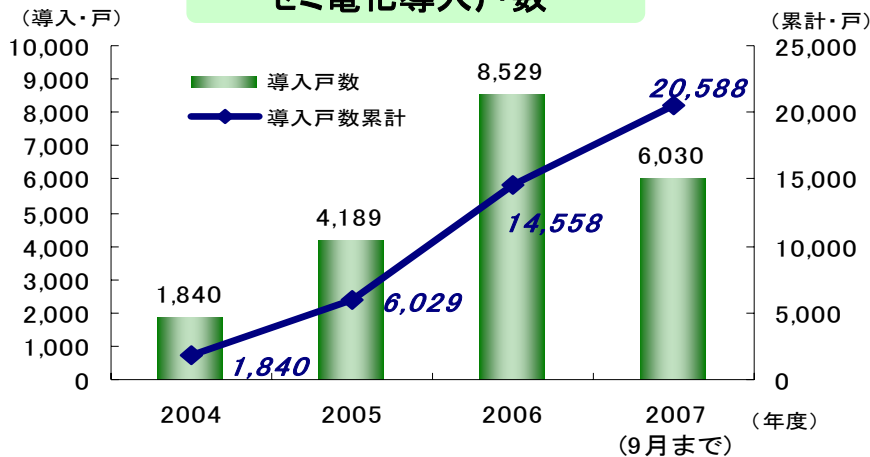
オール電化導入件数と新築時採用率



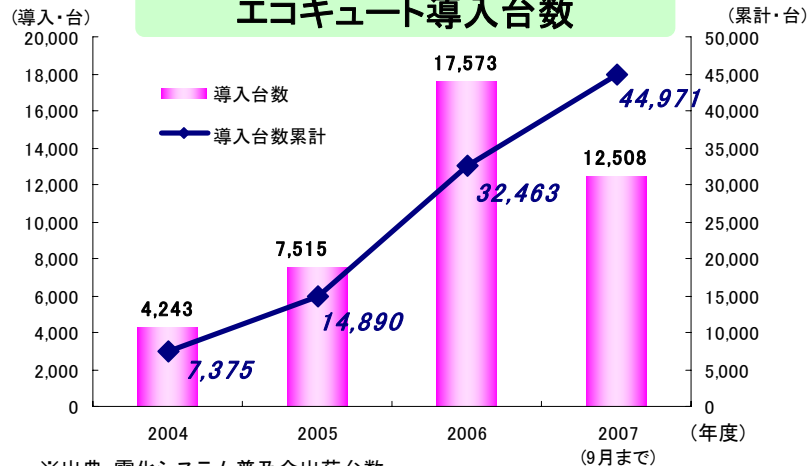
オール電化住宅区別の新築時採用率



セミ電化導入戸数



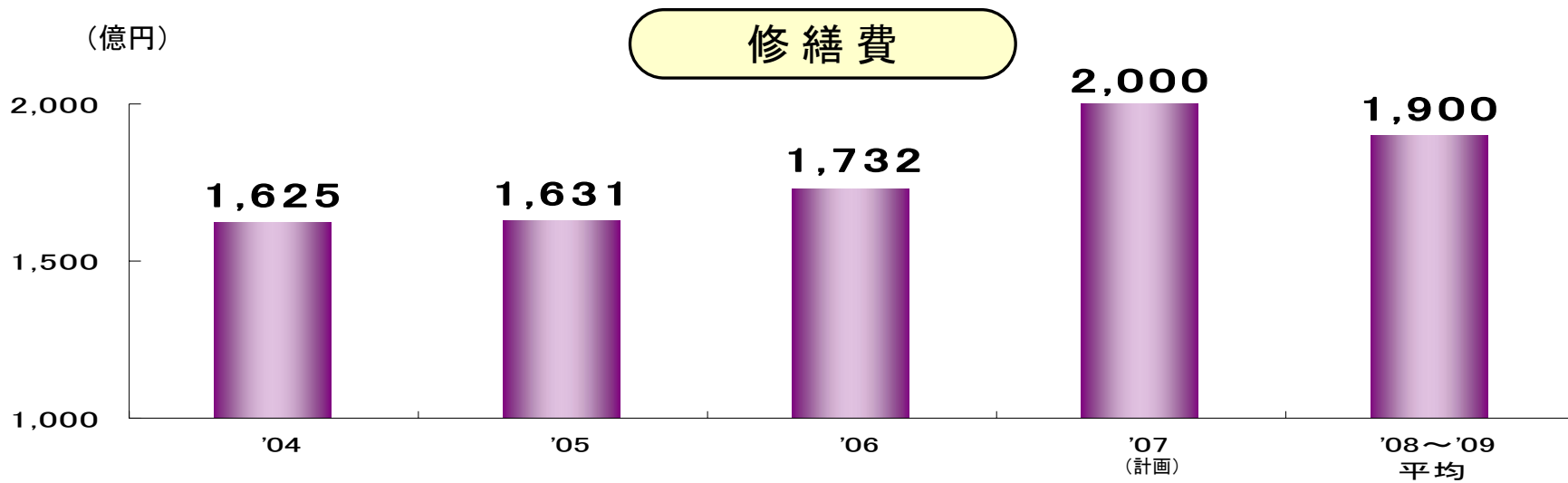
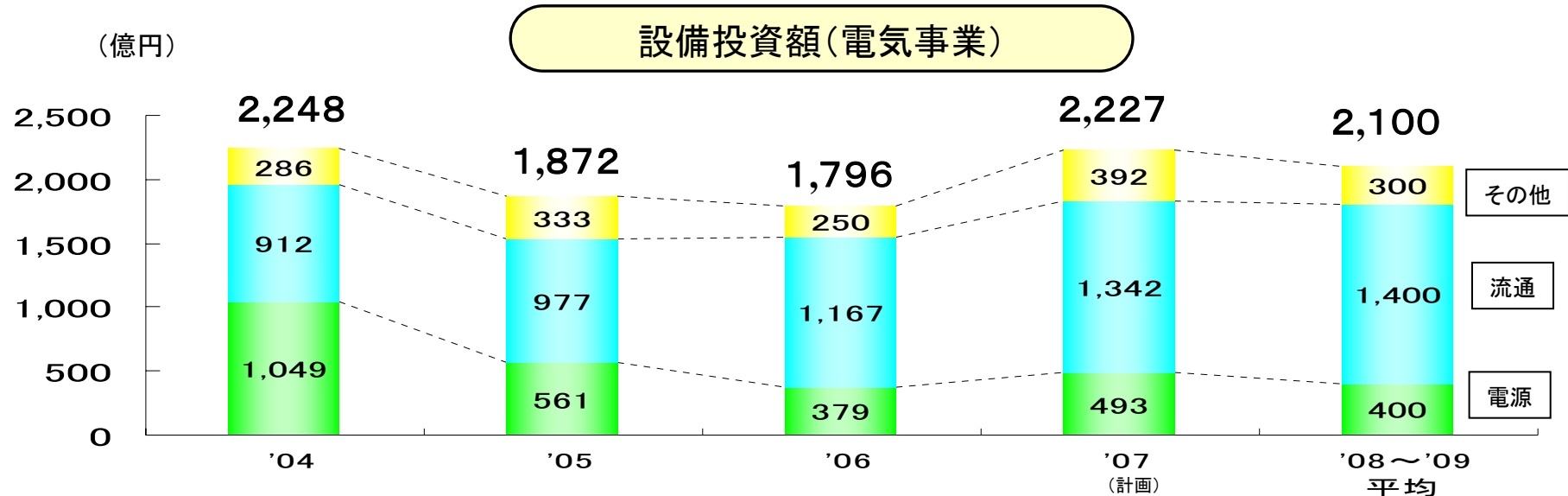
エコキュート導入台数



※出典: 電化システム普及会出荷台数

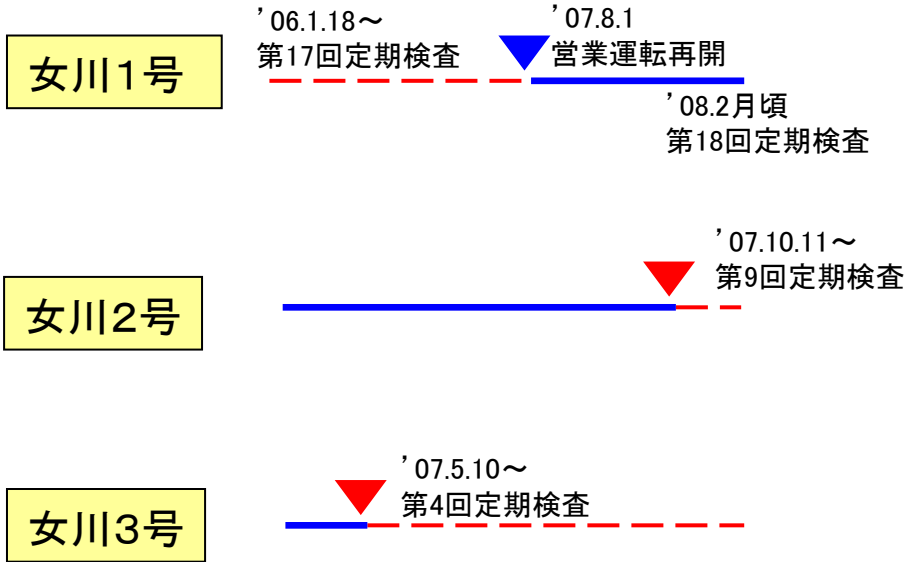
5. 供給力の安全・安定に向けて

'08, '09年度計画値は, 供給力対策や原子力耐震対策などを踏まえ, 今後見直す。

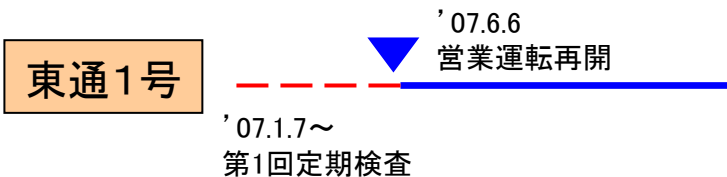


発電所の運転状況

1. 女川原子力発電所



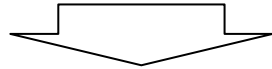
2. 東通原子力発電所



今後の見通し

1. 検査制度の改正

◇原子力プラントの安全確保と保全活動の充実を目指し、国で検討中（2008年4月から運用開始予定）



◇運転間隔の設定の考え方として、従来の13ヶ月に加え、18ヶ月、24ヶ月が示された

◇当社としては、現時点の内容をもとに準備中

- ・制度設計の詳細を確認
- ・安全確保と地域の皆さまのご理解を前提

2. 耐震安全性評価

◇自主的対応として、柏崎刈羽原子力発電所で観測されたデータによる概略検討を行い、原子力発電所の安全上重要な設備の機能維持への影響がないことを確認（2007年9月に公表）

◇新潟中越沖地震を踏まえ、2007年8月に実施計画書を再提出

評価結果の報告予定は以下のとおり

- ・女川1号機 --- 2008年12月
- ・女川2・3号機 --- 2009年 8月
- ・東通1号機 --- 2008年 9月

安定調達を基本に、経済性と弾力性を追及した燃料調達の展開

燃料価格の高騰・需給逼迫への対応

1. 石油

- ・調達ソースの多様化を図りながら、近距離ソースのサハリン原油・輸入重油を導入
- ・内航船需給の逼迫を踏まえた専用船の導入

2. 石炭

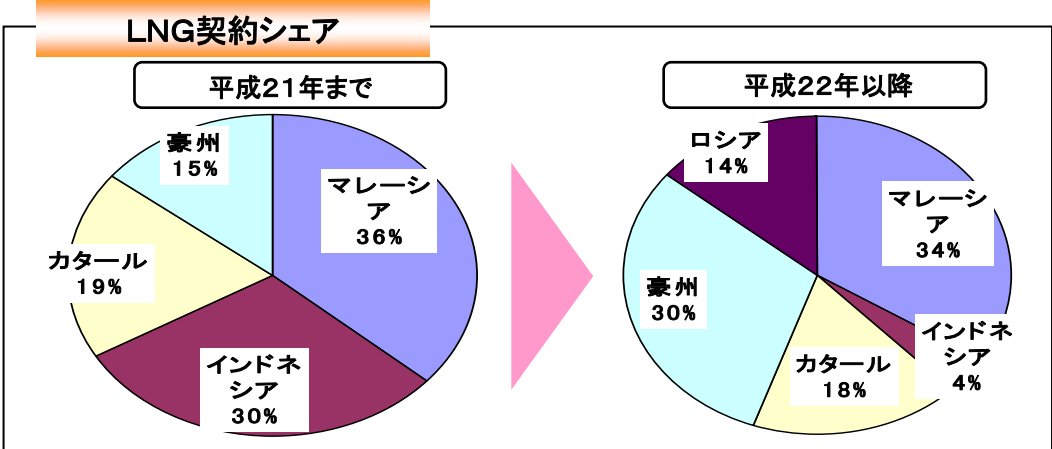
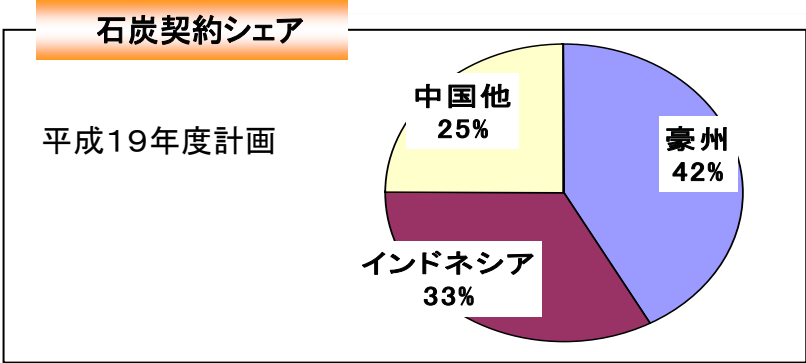
- ・供給国・石炭積出港の分散化
- ・専用船・専航船の活用
- ・韓国ポスコターミナルの活用

3. LNG

- ・調達ソースの更なる多様化(サハリンⅡ等)
- ・マスター契約の活用による弾力的な調達
- ・韓国ガス公社とのLNG調達等に係わる相互協力協定

4. 原子燃料

- ・多様な調達先との中長期契約の締結



長期的かつ安定的な燃料調達に向けた上流権益投資

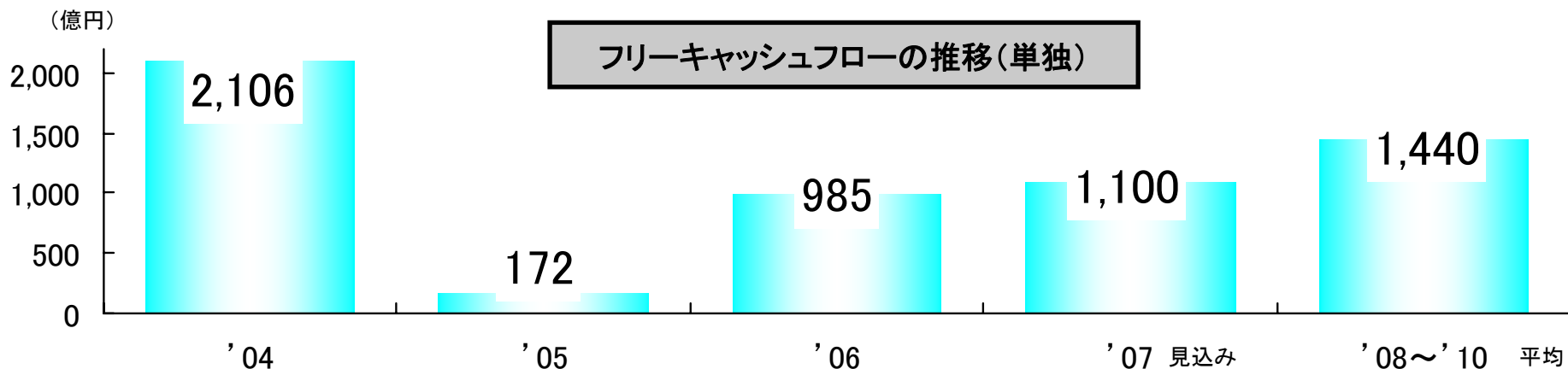
1. ウランプロジェクトへの参画

- ・カザフスタンの新規ウラン鉱山開発・生産プロジェクトへ参画
- ・2014年までに年間5,000トンのフル生産を予定
- ・年間最大100トンの引取権を取得(所要量の約2割)

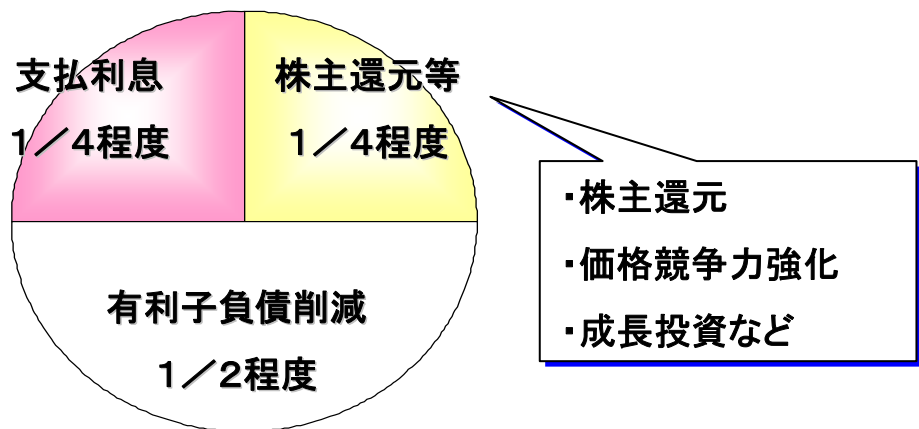
2. 今後の施策展開

長期的かつ安定的な化石燃料確保に向け、新規の上流権益投資の検討を行いながら、更なるサプライヤーとの戦略的な関係強化や先進的な燃料調達を展開

現行の配当額はできるだけ維持しつつ、今後の経営状況に応じて、配分比率の見直しを検討する。



2008~2010年度フリーキャッシュフロー累計⇒単独 4,300億円程度



当資料は、東北電力の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。当資料に掲載されております予測数字等は、東北電力の将来に関する見通し及び計画に基づく将来予測であります。

従って、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠する事はお控え下さいますようお願いいたします。

これらの将来予測には、既知・未知のリスクや不確定な要素などの要因が含まれており、その要因によって東北電力の実際の成果や業績、実績などは、記載の見通しとは大きく異なることが有り得ます。

東北電力では、投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。